

恵みと真理のニュース



2014 年 4 月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

主に自らゆだねよ、
主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

主を受け入れ青年になってから私の心に一つの願いがありました。いつかは必ずしなければならぬ宿題のようなもので、一方は心の重荷を下ろすことでもありました。私が幼い頃田舎で暮らしたから信仰生活をする時でした。住んでいた村は小さく田舎の聖徒が少ない教会を通ったので教育と奉仕することなく大人と子供みんな集まって礼拝を捧げました。私は牧師の説教が理解できなくて礼拝時間がとても退屈でした。さらに以前は今のようない心地よい椅子に座って施設がよく揃っている教会ではなく床でみんな座って礼拝を捧げたから暑い日には礼拝時間にこたつくこたつく居眠りをする子供達が多かったです。そうするうちに大きい都市から神学校を卒業したばかりの若い伝道士が副教役者として赴任して来ました。その方は子供達を愛する心が他の人と違いました。体が不便でも真な愛と熱情で子供達の世話をしながら主日は別に子供達の水準に合わせる礼拝を捧げるように勧めました。そのためには教会で信仰と使命感が充満した訓練を受けた教師がいなくて大きな問題でした。伝道士は高学年の中で何人を選んで教師として立て低学年を教える人を任せようとしませんでした。私にも勧めました。しかし、小学校を卒業してちょうど中学校に入った私には歳もあまり離れてない弟、妹達を教えるのは難しいことでした。聖書の知識もあまりにも足りなくてイエス様に対する確信もなくて祈りも下手でしたので担えるのが恐かったです。それで伝道士に続けて勧められても遂に従順しなかったです。その事が長い歳月、私の心の中にある宿題のような心の重荷でした。しかし、恵みと真理教会を通いながら“あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。”（フィリピン信徒への手紙 2：13）という御言葉のように神様は私にこの事がこれから重荷にではなく清い心の願いで変えてくださり教会学校の教師として奉仕することをするようになりました。



【信仰コラム】

“たとえ…いなくても私とキリストを通じて面白そうに私の救いの神様による喜んで”（ハバクグク 3:17、18）

自分が信じてよく知っていることを他の人にやさしく説明するほど信仰知識がよく整理されていこうとこの信仰生活も安定し、堅固になります。運動競技をするには、規則をよく理解していなければならないように信仰生活も同じです。キリスト教信仰の基本を分かって核心を把握することが必要です。五つの用語のキリスト教信仰の核心をご覧ください。

第一は、“それにもかかわらず”ということです。誰でもキリストを信じて迎接すると、罪許す受けになります。この恩恵が“それにもかかわらず”の恩です。罪が多いにも関わらず、キリストを信じれば救いになります。過ちが多いにも関わらず、キリストを信じれば義人としてなります。醜悪さにもかかわらず、キリストを信じれば、永生を得ます。傷が多いにも関わらず、キリストを信じれば天国に入ります。

第二は、“だから”という言葉です。聖徒になるために教会に行って主のことに献身するということがなく、神様の子になるため、この世を伴わないということがありません。

結婚して3人の子供を産み子供達を育つのも難しいことでしたが、神様は環境の扉を開いてくださり教師として奉仕する機会を与えてくださいました。いと切に祈ったら喜んで答えてくださいました。まず朝早く3人の子供を起こして教会に行く準備をさせて教会に連れて行く事から大変でした。主日の朝ことに寝坊する子供達の習慣を直すことはやさしい事ではありませんでした。まだ旦那が積極的に共に信仰生活をする状況ではなかった私の自ら子供達を起こして朝早く教会に連れて行く事から霊的な戦いでした。他の部署で仕えているある若い先生は赤ちゃんを連れて来てもらって誠に奉仕する姿を見ながら挑戦を受けました。25年26年の前、不従順したことが思い出して絶対にこれ以上あへひけないと思い、神様の助けを望みながら一所懸命奉仕しました。一ヶ月二ヶ月時間がたつて3人の子供達も徐々に主日の生活に慣れ始めました。大変でしたが奉仕すればするほど私の心には大きく驚く喜びが望まれました。私に礼拝と伝道を通して神霊な喜びを得るように導いてくださった神様、今は教会学校の奉仕を通して私の信仰を大きく成長させ仕える真な幸せまで知るようにさせました。奉仕する部署が児童部で多様な年齢対の性格と気質がみんなそれぞれでした。はじめ私が担当した事がおこたりました。はじめ私が担当した高学年の男の子達は言葉と行動が荒れて攻撃的でした。その中で特に攻撃的な言葉と行動する子達が何人かいました。礼拝時間に集中もできず互いにいたずらをしてそれがけんかになる事もありました。男の青年の先生達が叱っても先生の言葉をよくきかなかったです。けんかを止める私まで殴る場合もありました。私が育つ頃とは全く違って、さらに私の子供達はみんな娘なので男の子の言行がどうしても理解できなかったです。恐くて腹が立って心も痛くて一人でたくさん泣いた事もあります。しかし子供達を心に抱いて続けて祈ったら子供達に対する大きい関心と愛情を注ぐように神様は私の心にイエス様の愛が溢れるように与えてくださいました。イエス様の心で子供を見るようにして下さり、なぜそのような行動をするか理解できるように

してくださいました。親の心で子供達を接したりたまには友達のような心になって対話をしようとして、わざといたずらの言葉もかけました。子供達は始めに先生がなぜああだろうか、おかしいと思われる、ある子供達は“先生、元通りしてください、先生のスタイルじゃないですよ。”と言いました。心のうちには好きながらも違ったふりをしながら私に近づく子供達ができ始めました。そのように子供達と心の距離が短くなり奉仕するのはいっそう容易になりました。一年二年がたつほど体が成長するように信仰も成長する子供達をみながら私の神様に対する信仰と希望と愛も共に深くなることを感じるようになりました。幼い頃の私を思い出しながら心の深くにあるイエス様の愛と神様の御言葉が人生をどう成長し驚くほど良い影響を及ぼすか考えました。また、どうすれば子供達がイエス様を知り出会ってイエス様が願う人として育つように教師の使命のため自分なりの最善を尽くしています。知恵と能力が足りないときには神様に告白し求めると時によって知恵と能力をくださり助けてくださいました。“主に自らゆだねよ、主はあなたの心の願いをかなえてくださる。”ハレルヤ！！

今は教師として今まで与えてくださった恵みに感謝を捧げ、少なくとも心の負担を捨て神様の導きで奉仕する部署を移して首区域長として教区と区域を仕える事に戦力をつくしています。最近、作られた北朝鮮宣教会を仕えながら新しい使命も与えられインチョン聖殿とアンヤン聖殿を行き来しながらもっと楽しく感謝する心で奉仕しています。すぐ目に見えなくて手で触らない結果物がなくても今の子供達に植える信仰の種が大きい木になる事を期待しながら今日も忠誠するすばらしい教会学校の先生達を見ながら心から尊敬し愛し祈りで応援します。教会学校の先生と部署のリバイバルのため熱心に祈りながら私も新しい心で教会を仕え、福音を伝える事に力を尽くすことを決心します。神様に栄光を捧げます。

キリストの信仰を説明する 5 つの言葉

主の中で神様の恩として聖徒になったので“だから”私たちの体を聖なる祭祀で差し上げて、主の中で神様の恩として、神様の子供になったので“だから”この世の風潮を学び取りないということです。やさしくて、真面目に行こうと、光の子供になるというのではなく、光の子供になったために善良と正義感と誠実さで行うということです。

第三は、“そうすれば”という言葉です。聖書に記録された言葉は、神様の命令と約束、この二つに分類されます。命令は私たちに服従を要求して約束は私たちに信頼です。神様が多くの命令と約束をくださったことは私たちの幸せのためのものです。“そうすれば”という接続語の前に記録された言葉は私たちのことだがその後の話は、神様のことになります。4つは、“しかし、”という言葉です。人生の道に様々な困難がありますが、このようなとき、聖徒が大胆な行動できる理由は“しかし、”という言葉があるからです。ダビデの生涯を見ると彼は苦境に陥いた時、神様を頼って眺めながら“しかし、”という信仰を持つことを分かっています。ローマ書8枚で使徒パウロは聖徒はどんな状況でも神様を意志して“しかし、”と言うことができるという事実があります。

五番目は、“ただでさえ”という言葉です。ヘブライ3人の青年、サドウラク、メサク、アベツヌコは聖徒に“ただでさえ”という信仰を手本に

見せてくれました。（ダニエル 3:16-18）“たとえイチジクが生い茂っていない、ブドウの木に実がなく、オリーブの木に収穫がなく、畑に植物がなく、檻に羊がなく、牛小屋に牛がなくとも私はキリストを通じて面白そうに私の救いの神様による喜んで喜んだり”（ハバクグク 3:17、18）。ハバクグクの預言者も私たちに“そんなにいやしても”という信仰の偉大さを見せてくれました。私たちは罪を犯して不義とみすぼらしくむしろ不十分な人生です。“にもかかわらず”キリストの中にある拘束によって神様の恩で、救われました。“だから”救援された者として、神様の子供らしく、聖徒として、擬人らしく正義感と誠実さで生活してこの世界に生きてください。神様が多くの命令と約束をくださったことは私たちの幸せのためのものです。世の中に大小の問題が押し寄せて四方に囲まれても上を見てください。そして、言ってください。“しかし、神様が私と一緒にいます。神様がその永遠の知恵と能力で私たちを助けてくれます。”しかし、神様は私たち愛しています。“それでそのすべての状況を完全に変わるように期待しています・神様は私たちの手を取り合って導いてくれています。最終の勝利と栄光を予備しています。“そういやしても”としながらいつでもハバクグクの預言者のように歌いながら賛美する者がなってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人が すべての天下のあらゆるを得てからも救いを得ることができなければ一生が虚しくて不幸になってしまいます。ここで言う救いと言うのは永生を得て天国に入ることを意味します。だからどうすると救いを得ますか？どんな人が救いを得るようになりますか？という質問に対する正しい答を得ることがすべての人に急先務です。その答は聖書に啓示されています。聖書に記録された歴史と事件、詩と藩言、律法と予言、手紙と説教、イエス様の生涯に関する記事などどんな所を抽出しても救いの真理がその中に濃縮されています。

今日の私たちがよく見ようと思う事件記録も同じです。イエスキリストが罪人を救いしようと十字架に釘打たれました。イエス様の左右の方にも十字架が立たられていたし二人の強盗がそれぞれ釘打たれました。イエス様の十字架の上には“ナサレツイエス ユダヤ人の王”という文を書いた牌を付けておきました。民たちと官員たちが見物しながらおちゃらかすのを“あなたがもしユダヤ人の王ならあなたの自分を救いなさい。”しました。十字架に付けられた強盗の中に一りも誹謗して言うのを“あなたはキリストではないか？だからあなたと私たちを救いなさい。”しました。

あの時他のひとりの強盗が彼を叱りながら言いました。“お前は等しい処罰されていながらも神様を畏れないか？私たちは私たちが行った事に適当な罰を受けることだから当たり前だ。”と言いました。この方は何も間違ったのがない。”それからイエス様を向けて“イエス様、主が神様の国に入る時に私を憶えてください。”しました。

イエスキリストが彼におっしゃるのを“よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。”しました。二人の強盗の言った言葉は一言二言に過ぎないがイエスキリストに対して各自の心の中に持った考えがはっきりと表明されました。そして何時間の後の人の魂はそれぞれ他の世界に行きました。一り強盗は陰部に行ったし他の一人強盗はパラダイスに行きました。パラダイスに行くようになった強盗は死ぬこと直前に救いに至る悔い改めをしたのです。この強盗は救いに至る悔い改めがどんなことなのかを分かるようにしてくれる良い示しを残しました。

今日は救い得るようになった強盗の言葉と態度を分析して救いに係わる要点たちを整理して見ます。

第一、神様を畏れる心を持たなければなりません。

二人の強盗はこの時まで神様を畏れないで暮しました。そして自分の欲心を満たすために犯罪を犯して来たのです。ところで十字架に付けられた今の彼らの中にひとりの強盗は公義に審判なざる神様を畏れる心を持つようになりました。

どうすると救いを得ますか？

彼がイエス様を誹謗する他の強盗に向けて“お前は等しい処罰されていながらも神様を畏れないか？”と叱ったことは今自分は神様を畏れているという事実を言ってくれます。公義に審判なざる神様を畏れる心があると悔い改めるようになります。

第二、自分が罪人であることを神様の前に自ら認めて告白しなければなりません。

神様を畏れるようになった強盗は他の強盗に言うのを“私たちは私たちが行った事に適当な罰を受けることだから当然だ。”と言いました。ローマ人への手紙 3章 23節には“すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、”しました。人は誰も自分が神様の前に罪を犯したことが分かってその罪の深刻さを意識しなければなりません。神様に自分が罪人というのを自ら認めて告白しなければなりません。神様を畏れるようになった強盗は自分が罪人というのを自ら認めて告白しました。

第三、イエス様が誰なのかを分からなければなりません。

自分が罪人であることを自ら認めた強盗はまた他の驚くべき事実を悟るようになりました。自分と彼の仲間が刑罰を受けることは当たり前だがイエス様は罪がないのに自分たちのように刑罰を受けているということを悟りました。“この方は何も間違ったのがない。”と彼は言いました。イエス様を正義のある方で分かるようになった強盗は“イエス様は万王の王で万主の主で天国の主人である。”ということも悟りました。彼はイエス様を向けて“イエス様、主が神様の国に入る時に私を憶えてください。”と切に求めました。一体彼がどのようにしてイエス様に関するこの驚くべきな知識を持つようになったのでしょうか？十字架に釘つけた強盗がイエス様の真の実際の姿をこのように明確に分かるようになったから驚きべきです。この強盗が十字架に釘つけられたイエス様に対してわずか何時間の間にそのように完全に分かるようになったことは天にいらっしゃる父の神様が分かるようにしてくださったのです。

第四、イエス様に自分を任せなければなりません。

悔い改めた強盗はイエス様に“イエス様、主が神様の国に入る時に私を憶えてください。”と懇請しました。彼は凶悪な強盗だったがあえて神様のあわれみと赦しを切に求めました。そしてイエス様に彼の魂と未来を出して任せました。彼は正義のあって天国の主人であるイエス様に自分を憶えてくれるのを要求しました。神様が“記憶”してくれというのは神様の国で住むようにしてくれという意味です。

救いを得ようとすれば神様を畏れて自分が罪人であることを自ら認めてイエス様がキリストになることを分かって天国の主権者であるイエスキリストに自分を任せます。この強盗はこのすべてのものを公開的に自ら認めて告白しました。彼の身では舌を除き自由なのがなかったです。彼は彼の舌を賢明に使って彼の仲間の強盗をとがめて神様に対する彼の信仰を告白しました。

聖書に記録されるのを“すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。”(ローマ人への手紙 10:9,10)と言いました。本当に信仰を持った人は必ずそれを公開的に言うようになります。

終りに、悔い改める者に救いを施して下さる主イエスキリストの恵みに対してよく見ます。

イエス様は悔い改める強盗に差別ない救いの恵みを施してくださいました。イエス様は十字架で苦痛の中に頭を回して悔い改めた強盗を眺めて“よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。”と回答なさいました。イエスキリストが最後の瞬間に救いしてくださったこの人は何らの善行もできなかったです。もし救いが善良な行為によって行われたら、彼は救いをもらうことができなかったはずです。何故ならば彼は木に手足が釘つけられたからです。彼には正義のある事ができる機会の時間が終わりました。彼は何らの行動もできなかったです。彼はただ死ぬことの前にしばらく間一言二言だけできただけでした。ところでイエス様はその人に彼の苦痛が“今日”終わることを予言することと同時に驚くべきな宣言を言いました。“きょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。”このお話は罪の赦しと同時に彼に天の門をひらいてくださいました。イエス様とこの強盗は午前九時頃に釘つけたんです。だからこのような対話は12時頃の前後にありました。そしてイエス様は午後3時頃に死なれました。悔い改めてイエスキリストを信じた強盗はその日が過ぎす前にパラダイスに入りました。死の瞬間に真実に悔い改めた強盗に許諾された救いの恩寵は決して例外的なのではないです。

イエスキリストは“父がわたしに与えて下さる者は皆、わたしに来るであろう。そして、わたしに来る者を決して拒みはしない。”(ヨハネによる福音書 6:37)でおっしゃったし、“すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。”(マタイによる福音書 11:28)でおっしゃいました。私たちは今日の本文の感動的でありがたい場面を通じて主イエスキリストの因る救いがいくらふんだんでまた単純明瞭なのかを悟ることができます。そして凶悪な強盗でも神様の恵みが臨むと短い時間に完全に變化されたという事実を思う時我らの周りにいくら堅く人がいても気落ちするとかあきらめてはいけな いでしょう。死ぬこと直前でも悔い改めて救世主を迎接する事が起こることができます。

聖徒の皆さんは悔い改めと救いに対する真理を自分に適用して救いをもたらした人になりました。十字架にぶら下げられた強盗は悔い改める機会をつかんでパラダイスに行ったがこの世の中で礼拝と傳道と奉仕ができる機会は得ることができなかったです。皆さんには機会のドアがあります。まだ悔い改めない方々は今悔い改めて救いを得るように願います。聖徒の皆さんは救いをもたらした喜びと感激が一杯で礼拝と奉仕に力をつくしてください。そして救いの消息を手広く伝えて多くの人を“彼らの目を開き、彼らをやみから光へ、悪魔の支配から神のみもとへ帰らせ、また、彼らが罪のゆるしを得、わたしを信じる信仰によって、聖別された人々に加わるためである。”(使徒行伝 26:18)する仕事に力をつくしながら生きて行くように願います。